Ⅳ　研　究　計　画

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫と充実

～　「つながりのある授業づくり」をめざして　～

1　研究の概要

（1）児童の実態

本校は大仙市の中心部に位置する県内でも有数の大規模校である。児童は明るく素直であり、行事や縦割り活動等の全校活動では、のびのびと力を発揮し、大集団で活動するよさを体験することができている。しかし、自分に自信をもてずに人間関係づくりに困惑したり、粘り強く取り組むことに苦手意識をもったりする児童が少なくない。中には、自信のなさから自分の力を思う存分発揮できない児童も見られる。秋田県学習状況調査の結果を見ると、基礎的・基本的内容が定着していない児童が見られ、確実な定着の徹底を図る必要がある。また、同調査の児童質問紙の自己有用感・自尊感情の結果から、自己有用感がより高まる手立てを考えていく必要がある。

（2）これまでの研究の経過

本校は、これまで国立教育政策研究所「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」についての研究推進拠点校として、文部科学省の委託を受けて研究を進めてきた。

令和元年度は、「知識や技能を活用したり知識等を相互に関連付けたりして深い理解につなげる学習活動」を中心に研究を進めた。特に、「見方・考え方」を焦点化し、「単元や授業の中で働かせたい『見方・考え方』」、「単元で付けたい力を身に付けた児童の姿」を明確にした授業改善に取り組んできた。

令和２年度からの３年間は「『見方・考え方』を明確にした単元構成」と「知識と知識をつなぐ学び合い」、そして「『見方・考え方』を働かせた学び合いの充実」を重点とし、取組を進めることで、自己の学びを深め、身に付けたい資質・能力の育成を目指してきた。また、総合的な学習の時間を中心に、各教科等において「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」を意識した活動や、生徒指導の実践上の視点を踏まえながら各教科の特質に応じた取組をすることで、主体的に学び、自己の学びを深められる児童の育成に力を入れてきた。その結果、以下の成果を得ることができた。

・「深い学び」の授業づくりの鍵となる、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせている児童の姿を具体化することで、効果的な授業構成や授業における教師の手立てが明確になった。
・総合的な学習の時間を中心にＳＤＧｓを意識した取組を進めることで、自分が住んでいる大曲地域の新たな発見や、地域の自然、行事、食について考えるきっかけとなった。

また、以下の改善点が見えてきた。

・児童自身がこれまでの学びを実感したり活用したりする授業づくりの工夫をする。
・各教科等の特質に応じ、ICT を効果的に活用する。
・児童に基礎基本となる学習内容の定着の徹底を図る。

（3）今年度の方針

今年度も、これまで継続して取り組んできた「見方・考え方」を働かせた学び合いを基本として研究を進めていく。さらに児童自身が学びを実感したり活用したりする授業を目指し、前学年や単元・時間ごとの学習のつながり、また、対話を通した自分と友達の思いや考えのつながりを意識して学びの質を高めていきたい。その際には、各教科の特質に応じ、適切な学習場面において ICT を効果的に活用することで学習活動のさらなる充実を図るようにする。今年度の重点教科を国語・算数とし、教科の特性を生かした、より具体的な実践を進めていきたい。さらに、生徒指導の実践上の視点を踏まえた取組を進めていくことで、学習の中で達成感や満足感を感じた子どもたちの笑顔が溢れるような授業を目指していきたい。

２　研究の重点

（１）研究の重点と具体的な手立て

重点１　子どもの発想や気付き、疑問を生かした主体的な学習活動
〇学習意欲を喚起する導入や課題解決に有効な手立てを工夫する。
〇子どもの思考を深めるための発問や問い返しを工夫する。

重点２　充実感・成就感を生み出す指導の展開
〇課題や問題に対して仲間と考えを共有し、自分の考えの深まりや広がりをもたせる手立てを工夫する。
〇学習場面に応じて ICT を効果的に活用する。
〇学びや変容を自覚することができる振り返りを工夫する。

重点３　基礎的な知識・理解の確実な定着
〇「学びの基本」「教えの基本」に基づいた共通実践を進める。
〇 家庭学習の推奨(「家庭学習の手引き」による家庭との連携。AI ドリルでの基礎学力定着)
〇スキルアップタイム（AI ドリルの活用）の充実

（２）重点教科等の研究テーマ・重点・具体的な手立て

＊研究の重点１、２を受けて、学びの質の高まり、必要感のある学び合いについての具体的な手立てとする。

研究テーマ	〇研究の重点　　・具体的な手立て
＜国語科＞ 思いや考えを適切な言葉で進んで伝え合う子どもの育成	**〇言葉による見方・考え方を働かせ、学びを深める授業づくりの工夫** ・伝え合う目的や視点を明らかにし、個々の考えの形成を目指す学習活動の工夫 ・根拠にした叙述や理由・言葉をよりどころにし、思いや考えを深められるような手立ての工夫
＜算数科＞ 自立的・協働的に問題を解決し、新たな問いに向かう子どもの育成	**〇「わかった」「できた」を実感できるような、学習内容や問いのつながりを意識した授業づくり** ・学習内容のつながりを意識しながら学びを深めるための発問の精選や単元構想の工夫 ・自立的・協働的に問題を解決し、学びを深めるための効果的な ICT の活用

（３）研究の検証

〇 授業での自己評価：授業の振り返りの記述を基にした自己の変容と達成度での検証
〇 児童アンケート：研究の重点について到達目標の達成度での検証
〇 教師アンケート：研究の重点について学びの自己評価での検証
〇 県学習状況調査、全国学力・学習状況調査：各教科での達成度による検証
〇 授業研究会：成果と課題の検証と次年度の重点についての提案